

第1回SPARC Japanセミナー2019企画(案)

年間テーマ: 令和時代のオープンサイエンス

企画タイトル: 研究者情報サービスの動向

日時(候補): 9/27(金)、9/30(月)、10/1(火)、10/4(金)

場所: 国立情報学研究所 9/27(金) 19階会議室

9/30(月)、10/1(火)、10/4(金) 12階会議室

WGメンバー: 高久(筑波大)、山形(北大)、矢吹(横浜国大)

(司会)(パネルモデレーター)(運営(Twitterほか))

タイムテーブル(仮)

- ・ 13:00-13:05 開会/概要説明
 - 高久 雅生(筑波大学)
- ・ 13:05-13:45 機関リポジトリと研究者情報サービスを連携した運用(仮)(40分)
 - 氏 名(信州大学)(調整中)
- ・ 13:45-14:25 研究成果の網羅的収集とリポジトリへの搭載(仮)(40分)
 - 氏 名(日本原子力研究開発機構)(調整中)
- ・ 14:25-14:35 休憩
- ・ 14:35-15:15 researchmapを活用した研究者情報サービスの運用(仮)(40分)
 - 氏 名(京都大学)(調整中)
- ・ 15:15-15:55 研究者情報サービスとORCIDの活用(仮)(40分)
 - 氏 名(東京工業大学/物質・材料研究機構)
- ・ 15:55-16:05 休憩
- ・ 16:05-17:05 パネルディスカッション:(60分)
 - 上記登壇者+パネルモデレーター
- ・ 17:05-17:10 閉会

全体の趣旨説明

※案確定後、英文もご用意ください。

研究者情報サービスは大学・研究機関等において重要な社会への発信ツールとなっている。社会一般への説明責任、広報活動を支える重要なツールであるのみならず、学生獲得や共同研究相手探し、個別研究者や研究室の情報発信ツールとしての役割も担っている。

研究者情報の効果的な発信は、研究者個人の成果をよりよく伝えるだけでなく、研究機関等のオープンな知の発信において重要な役割を持つ。同時に、研究者情報サービスは機関リポジトリ等の業績情報を取りまとめ発信していくにあたって重要なハブとみることもでき、それぞれのツールの連携や統合が求められることも多い。この両者がもつ機能を相互に発揮するための役割分担や連携は多様な在り方が可能であり、学術情報基盤に関わる関係者はこのことを理解しておくことが肝要である。

研究者情報サービスは、組織内部における業績評価や業績把握、評価ツールやベンチマークツールとしての性格も色濃くもち、研究戦略の策定等に向けても重要な位置づけを持ちつつある。加えて、研究者情報を提供するサービスは、大学・研究機関内で構築した個別の研究者総覧サービスに加えて、国内外でもresearchmapやORCID、ResearchGate、Google Scholar等、さまざまな特色をもつサービスが出現している。

これらの状況を整理しつつ、研究者情報サービスがもつ特色とその広がりを、学術情報と研究のライフサイクルとともに理解していくために、具体的な研究者情報サービスの事例をいくつか紹介し、考える機会を提供したい。